

<p style="text-align: center;"><b>情報工学実験Ⅱ</b> (Experiments in Information Engineering II)</p>	<p style="text-align: center;"><b>3年・通年・3単位・必修</b> <b>情報工学科</b> <b>担当 山口賢一、岡村真吾、岩田大志</b></p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 実験を通して、これまでに学習したコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する基礎的な技術を確認し、理解を深める。また、レポート作成を通してデータの整理、加工および結果の考察を行うことのできる能力を身につける。</p>		
<p>〔講義の概要〕 ワンボードマイコンを用いた機械語プログラミングとブレッドボードを用いた電子回路の実験を行う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 実験をスムーズに進行させるためには、事前の準備（理論の確認や調査）と事後の整理が必要不可欠である。そのための予習復習を常に心がけること。</p>		
<p>〔到達目標〕 1. 各実験の意味を理解し、予定された期間内で実験を終了し、実験結果の考察ができること。 2. 実験した内容を過不足なくまとめ、報告書を書けること。</p>		
<p>〔評価方法〕 レポート（報告書）60％，実験に対する取り組み（実験課題の達成率）40％を総合して評価する。ただし、1つでも未提出のレポートがある場合は不可 A 以下の成績とする。</p>		
<p>〔教科書〕 情報工学実験指導書（3 学年用）</p> <p>〔補助教材・参考書〕 情報工学実験指導書（2 学年用）、1 年次デジタル回路の教科書</p>		
<p>〔関連科目〕 実験においては、1 年次のデジタル回路や 2 年次の情報工学実験Ⅰ，論理回路，コンピュータシステム概論やプログラミング系の科目を参考にして、講義で得られた理解をさらに深めることが重要である。 また、実験で得る知識は、3 年次の電子回路，コンピュータアーキテクチャ，4 年次のオペレーティングシステムで必要となるので十分に理解しておくこと。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス&実験	実験の方法, レポートの書き方等の説明ののち実験	
第2週	実験	グループ毎に各実験テーマに取り組む	
第3週	同上	同上	
第4週	同上	同上	
第5週	同上	同上	
第6週	同上	同上	
第7週	同上	同上	
第8週	同上	同上	
第9週	同上	同上	
第10週	同上	同上	
第11週	同上	同上	
第12週	同上	同上	
第13週	同上	同上	
第14週	同上	同上	
第15週	同上	同上	
第16週	同上	同上	
第17週	同上	同上	
第18週	同上	同上	
第19週	同上	同上	
第20週	同上	同上	
第21週	同上	同上	
第22週	同上	同上	
第23週	同上	同上	
第24週	同上	同上	
第25週	同上	同上	
第26週	同上	同上	
第27週	同上	同上	
第28週	同上	同上	
第29週	同上	同上	
第30週	同上	同上	

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)